

1 学校教育目標

技術革新やものづくりを支える将来の専門的職業人の育成及び社会に有為な職業人の育成を実現するため、次の重点目標を設定する。

- ① 生徒の進路希望や特性に応じた教育の推進
- ② 旺盛な気力、強靱な身体、豊かな人間性を備えた逞しい技術者の育成
- ③ 正しい職業観や勤労観、創造性や勤労意欲に富む専門的職業人の育成

2 現状分析（前年度の評価と課題を踏まえて）

【学校運営】学校の信頼回復と教職員の資質向上を目指した研修は一定の成果があり、来年度も新たな視点や分野について検討し、継続実施していきたい。また、２年連続で入学志願者について一部学科において定員割れが発生しており、下工キャリアアップセミナーの内容見直しや学校ＨＰの工夫をとおして学校の魅力を発信し志願者増加に繋げていく。学校運営協議会委員より、重点目標の評価基準の緩和について指摘があり、今年度の設定時に反映させていきたい。

【学習指導】資格取得に向けた取組については、目標どおりの結果を出すことができた。一方で普段の家庭学習の取組については、生徒の意識や学習時間の不足について課題が残った。授業以外の個人指導や補習を継続するとともに、授業改善や家庭学習支援の具体的な手立てを示すことで、生徒の学習意欲の向上や家庭学習時間の増加を図りたい。また、昨年度から導入した「基礎力診断テスト」と既存の「課題テスト」等を併用しながら、確かな学力の定着と向上を図りたい。

【生徒指導】生徒の自己指導能力の育成を目標とし、面談等をとおして生徒理解に努めたが、問題行動件数は減少に至っていない。また些細なものも含めいじめと認知された事案も数件発生した。何れの事案についてもＳＮＳによるトラブルが原因となっており、ネット上でのトラブル回避や生徒間のコミュニケーション力を高めるための指導について、外部機関等との連携を図りながら未然防止を含めた対策を講じていきたい。

【進路指導】昨年度の３年生については概ね希望どおりの進路が決定した。今後も従来どおりの進路指導に加え、新たな求人先の開拓や生徒の資質能力など特性に沿ったマッチングに視点をおいた就職指導の充実を図りたい。大学や高専編入希望者に対し、十分な情報提供や受験対策についての指導を充実させ、特に高専編入希望者の合格を目指したい。

【健康安全教育】健康診断結果による治癒率の更なる向上を目指し、保健体育課、学級担任、部活動顧問、保護者が連携し生徒自身が健康管理に対して適切な生活習慣や行動をとることで、治癒率１００％を目指したい。また、新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染症予防についても蔓延防止に向けた指導の徹底を図りたい。

【特色づくり】地域産業を担う人材育成の視点から、「下工キャリアアップセミナー」や「小学生ものづくりコンテスト」など既存の行事について内容の見直しを行い、地域の子どもたちにとって魅力ある学校をアピールし、入学志願者数の増加に繋げていきたい。

【業務改善】昨年度取り組んだ「下松工ＯＳＤ」は時間外業務時間の縮減に一定の成果があった。教職員の負担軽減や時間外業務時間縮減に向けて、業務の均等化を図るために改めて見直しが必要である。教職員が実感できる働き方改革を加速させていくためにこれまでの取組を検証し、教職員の協力を仰ぎながら意識改革とともに、実感と実態を伴う働き方改革を進めていきたい。

3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題

1 重点努力目標・・・・・・・・地域産業を担う人材の育成『 凡 事 徹 底 』

（１）【学習指導】基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得

- ・学習意欲の向上と学習習慣の確立
- ・多彩なカリキュラムによるキャリア教育の充実
- ・外部人材活用による技能の向上と資格取得指導の充実

（２）【生徒指導等】人間力の向上（あたりまえ向上委員会の活用）

- ・百周年に向けて、下松工生の誇りの醸成
- ・自己肯定感、自己有用感、自己指導能力の育成
- ・意気高うして穢れなく、自ら治めて己に克つ

（３）【校務分掌・その他】教職員の協働体制による組織力の向上

- ・各分掌や各学科、各学年の目標管理による共通理解と協働実践
- ・コミスクを活かした諸課題の解決への協働と外部評価を生かした学校改善

2 チャレンジ目標

「皆勤（遅刻・欠席０）８割以上」
「ステップテスト平均点８割以上」

4 自己評価					5 学校関係者評価		
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成度診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
総務部	・保護者との信頼関係の確立 ・地域との連携教育の実践推進	・学校ホームページのタイムリーな更新により、学校からの情報発信に努める。 ・学校開放日の設定や、地域の行事等へ積極的に参加する。	ＨＰの更新回数 ４：年５０回以上 ３：年４０回以上 ２：年３０回以上 １：年２０回以上	2	・ホームページについては、適時更新をしていた。コロナの関係で、行事が実施できずに更新ができなかったことがある。 ・来年度の100周年に向けて、ホームページを新しくして、より閲覧しやすい環境を準備している。	・新型コロナウイルス感染症の影響で、多くの行事が中止になり、ＨＰ更新頻度が低下したことは理解できる。百周年を機に、リニューアルされたＨＰにより、多くの情報発信をしていたきたい。	B
	学習習慣の確立 〔学習行動〕	・授業を大切にし、家庭学習に取り組むよう指導する。まずは、考査期間中はしっかりと学習に取り組むよう、家庭学習時間調査や考査発表中の学習計画表配付などにより、学習習慣の確立を図る。	考査期間の授業以外の学習時間の１日あたりの平均が、 ４：４時間以上 ３：３時間以上 ２：２時間以上 １：２時間未満	1	学習時間の平均が、１学期の調査では８９分、２学期の調査では８１分と十分な学習時間を確保しているとは到底言えない。平素から家庭学習の習慣が身につくよう、宿題等を適切に出したり、学習計画表のさらなる活用を促したりしていきたい。	・コロナ禍だからこそ家庭で過ごす時間の増加に合わせ、家庭学習時間の確保に繋げるような指導をお願いしたい。 ・スマートフォンに費やす時間を学習に向けられる様な対策を、家庭と協力しながら進めていただきたい。 ・評価基準の見直しが必要である。	C
教務部	基礎学力の向上と弱点科目の克服 〔学習結果〕	・成績不振者に補習等を行い、追指導考査を実施し、基礎学力の向上を図り、学年末欠点数の減少をめざす。また、学習意欲向上のため成績優秀者やステップテスト優秀者を表彰する。	全学年の学年末欠点総数が、 ４： ９以下 ３：１２以下 ２：１５以下 １：１６以上	1	２学期末の時点での欠点数は、１年２８、２年１４、３年７である。３年については学年末の欠点総数は２と大幅に減少した。１・２年においても目標が達成できるよう指導していきたい。	・１年生の欠点数がやや多いように感じた。学年が進むにつれ、学習の難易度があがることから、早期に苦手科目の克服ができるような対策を講じていただきたい。 ・評価基準の見直しが必要である。	C
	自己指導能力の育成、自己有用感、自己肯定感をもたせ、百周年に向けて下工生としての誇りの醸成	・ホームルーム等における適切な役割分担と、活躍の場の設定を行う。 ・面談等を通して生徒理解を深める。 ・あたりまえ向上委員会と協力し、生徒の資質向上を目指す。	生活アンケート結果において「学校に誇り」、「自分のことがすき」の割合が ４：７割以上 ３：５割以上 ２：３割以上 １：３割以下	3	ホームルームでは、ひとり役を担い責任をもって活動できる生徒が増えた。式や行事での講話や取組を通して、学校創立１００年の歴史に名を刻むという誇りの醸成ができた。年間３回の面談も継続して取組、生徒理解に努めた。	・来年度は百周年の節目の年であり、生徒全員が下松工業生としての誇りを持てるよう、指導していただきたい。	B
生徒部	開発的生徒指導によるいじめ未然防止	・いじめに対する体制づくりを強化する。 ・いじめアンケートの内容を見直し、早期発見に努める。 ・いじめのとりえ方や認知について教職員の共通理解を図る。	４：いじめ防止基本方針の見直しを行い、研修会を実施した。 ３：いじめ防止基本方針の見直しを行い、職員や生徒・保護者に周知した。 ２：いじめ防止基本方針の見直しを行った。 １：いじめ防止基本方針の見直しを行っていない。	3	年間３回のいじめアンケートと担任による面談を通して、いじめの未然防止、早期発見に努めた。いじめ事案については、教育相談係やスクールカウンセラーと連携し、迅速に対応した。学校ホームページにいじめ防止基本方針を掲載し、学校外にも周知した。	・引き続きいじめの防止や早期発見、早期対応に努めていただきたい。研修についてはオンラインを積極的に活用するなどの工夫をして、実施していただきたい。 ・アンケートの実施回数が適正か検証が必要ではないか。	B
	教育相談（特別支援）体制の充実	・担任からの情報をもとに気になる生徒を早めに把握し、関係教員と連携して面談やケース会議等を行う。 ・ＳＣとの面談を仲介し専門的な助言を得られるようにする。	４：面談や情報共有が十分に行われ、生徒理解・指導に役立った。 ３：一応の取り組みが出来、ある程度成果があった。 ２：面談や情報共有はあまり出来ず、状況把握が不十分 １：面談や情報共有が全く出来なかった。	4	担任やアンケートからあがった情報を教育相談、ＳＣを中心とした関係教員で共有し、ケース会議を積極的に行い、組織的な対応をすることができた。また、ＳＣによる教職員研修を行い、生徒支援のための資質向上に努めた。	・不登校の生徒の解消が一定数あるなど教育相談活動が充実しており、大変評価できる。アンケートの工夫やや面談を充実させ、悩みを抱える生徒のケアに努めていただきたい。	A

保健体育部	体力の向上	・ 2000m持久走を実施することにより、持久力忍耐力をつける。	4：自己ベストを3回更新した生徒が60%いた。 3：自己ベストを3回更新した生徒が50%いた。 2：自己ベストを3回更新した生徒が40%いた。 1：自己ベストを3回更新した生徒が30%いた。	4	自己ベストを出すペースを体感させた後は、更新が続くようになった	・ 持久走を苦手としている生徒の関心・意欲を低下させないよう授業内容を工夫し、引き続き体力の向上に努めていただきたい。	A
	心身の健康の自己管理	・ 治療率の向上を目指す。 ・ 保健だよりを発行し、心身の健康管理ができるように啓発する。 ・ 他の分掌や学年・保護者等と連携を心がけ、保健指導の充実を図る。	4：治療率が60%以上 3：" 50%以上 2：" 40%以上 1：" 30%以上	1	担任・部顧問に協力を仰いだが、最低の結果となった。全校集会での指導や3年生が部活動を引退後の2学期に健康診断が実施されたことも影響しているかもしれないが、来年度に向けて養護教諭と対策を考えていきたい。	・ 治療率の低さはコロナの影響が大きいと思われるが継続した治療勧告とともに自己管理能力の育成の為に指導も併せてお願いしたい。	B
進路指導部	生徒の個性、能力、希望に応じた適切な就職指導の実施	・ キャリアライフやLHR、ガイダンスを利用し、個々の特性や適性を理解させ、企業情報の提供を行う。 ・ 積極的に個人面談や三者懇談を行い、意識を高め、希望する就職を実現させる。	4：1次試験の合格率が95%以上 3：1次試験の合格率が90%以上 2：1次試験の合格率が85%以上 1：1次試験の合格率が80%未満	3	合格率は91%となり前年度より下がった。今年度はコロナ禍による影響で求人数が減ったりWebによる面接も行われ原因は特定できないが、コミュニケーションを苦手とする生徒が多くなってきていることは大きな要因だと思われる。	・ コミュニケーション能力の向上は、社会生活をする上で重要なスキルであることから、引き続き生徒のコミュニケーション能力の向上に努めていただきたい。また、今後もコロナの影響が続くと思われるので、Web面接の対策を講じていただきたい。	B
	生徒の個性、能力、希望に応じた適切な進学指導の実施	・ 自らが希望進路先を明確にできるように、個人面談、三者懇談、進学説明会などで適切な情報を提供する。 ・ 進学課外などを実施することで、希望の進学先に進める能力を高める。	4：希望進学先への決定が100% 3：希望進学先への決定が90%以上 2：希望進学先への決定が80%以上 1：希望進学先への決定が70%未満	2	合格率が83%と低いのは進学者の人数が少ない(15/18)こともあるが、H29年度から高専編入の合格者が出ていない(今年度は2名)のは問題である。最近は推薦であっても筆記試験が課されるため準備不足も大きいと思われる。	・ 高専への編入は、本校を志願する中学生の判断材料に影響すると思われるので合格者の輩出に向け粘り強く指導し、結果に繋がるようお願いしたい。	B
工業	資格取得指導の充実	・ 各部活動の大会期日を調査し、資格試験日を生徒に提示することにより、生徒一人一人に資格取得の予定を立てさせ、資格取得の意識付けをさせる。	4：ジュニアマイスター3000点以上 3：ジュニアマイスター2500点以上 2：ジュニアマイスター2000点以上 1：ジュニアマイスター2000点未満	1	各種検定試験、ものづくりコンテスト・大会がコロナウィルス感染症対策により中止となったことが影響した。(2/8の時点で1390点)結果待ちの、後期技能検定が、3月19日発表となる。(約300点プラスの予定)	・ 来年度もコロナの影響が続くと予想されることから実状に合わせた評価基準の見直しを検討していただきたい。	B
	教職員の指導力向上	・ 各種指導者講習会に参加することにより教職員の指導力向上を計る。	4：3種類以上の講習会に参加した。 3：2種類の講習会に参加した。 2：1種類の講習会に参加した。 1：1度も講習会に参加しなかった。	2	コロナウィルス感染症対策により、ほとんどの指導者講習会が中止となったことが影響した。	・ コロナ禍で大会やコンテストが中止になり、生徒はもちろん指導する教員のモチベーション維持のため、オンライン研修への積極的な参加を検討していただきたい。	C

1 年 部	基本的な生活習慣の定着	・「あたりまえのことがあたりまえにできる」ことを基本に、「時間を守る（5分前行動）」「決まりを守る」「挨拶応答」がしっかりできるように指導する。	4：皆勤が65%以上 3：皆勤が55%以上 2：皆勤が45%以上 1：皆勤が45%未満	2	現時点で51.7%と皆勤率が低い、今年度は感染症予防のため、無理をして登校しないようにという指導に変わったのでやむを得ないところがある。学年全体としては落ち着いて学校生活を送っている。	・感染症予防の徹底を図りながら、充実した学校生活を送れるよう、保護者と連携した取組をお願いしたい。	B
	基礎学力の向上	・日々の授業を大切にしよう指導するとともに、資格試験取得を奨励・支援する。 ・家庭学習の時間が増すように指導する教科書類はすべて持ち帰らせる。	4：ステップテスト平均8割以上 3：ステップテスト平均7割以上 2：ステップテスト平均6割以上 1：ステップテスト6割未満	2	・5回までの平均であるが、ステップテスト平均33.7点（67.4%）と満足できる結果にはならなかった。 ・教科書類の持ち帰りは浸透している。	・コロナ禍だからこそ家庭学習の重要性を理解させ、基礎学力を高める指導をお願いしたい。教科書の持ち帰りが浸透していることは、評価できる。	B
2 年 部	基本的な生活習慣の定着	・「あたりまえのことがあたりまえにできる」ことを基本に、「時間を守る（5分前行動）」「決まりを守る」「挨拶応答」がしっかりできるように指導する。	4：皆勤が65%以上 3：皆勤が55%以上 2：皆勤が45%以上 1：皆勤が45%未満	3	2学期末の時点で皆勤率58%で1年次の62%を下回っているが、今年度は感染症予防のため、無理をして登校しないようにという指導に変わったのでやむを得ないところがある。学年全体としては落ち着いて学校生活を送っている。	・感染症予防の徹底を図りながら、充実した学校生活を送れるよう、保護者と連携した取組をお願いしたい。	B
	基礎学力の向上	・日々の授業を大切にしよう指導するとともに、資格試験取得を奨励・支援する。 ・進路選択の意識を高め、家庭学習の定着を促す。	4：ステップテスト平均点8割以上 3：ステップテスト平均点7割以上 2：ステップテスト平均点6割以上 1：ステップテスト平均点5割以上	2	学年全体の平均点は64.8%で目標とした8割をかなり下回った。担任からテストへの備えを呼びかけてきたが、学習習慣の確立が十分に行われなかった。3年次での進路実現に向けて意識を高めるよう継続して指導していく必要がある。	・コロナ禍だからこそ家庭学習の重要性を理解させ、基礎学力を高める指導をお願いしたい。企業の求人数の減少等危機感を持って、進路対策を行うよう指導していただきたい。	B
3 年 部	希望進路の実現	・個人面談や個別指導を充実させるとともに、進路選択に関わる情報提供の充実を図る	4：希望に添った進路情報の提供が十分出来た。 3：希望に添った進路情報の提供が出来た。 2：希望に添った進路情報の提供があまり出来なかった。 1：希望に添った進路情報の提供がまったく出来なかった。	4	・コロナ禍により日程や試験の様式が変更になったが、進路指導部と各担任、各科の連携により、面談、面接指導等を通して情報提供を行えた。多くの生徒が希望企業の内定を得ることができた。また、進学者も多くが希望進路を実現した。	・コロナ禍で社会情勢が不透明な中、多くの生徒の進路が確定したことは、大いに評価できる。先生方の指導に感謝したい。	A
	基礎学力の定着	・希望進路実現のため、自主学習の定着を促す。 ・自己有用感につながるよう資格取得を奨励・支援する。	4：ステップテスト平均点8割以上 3：ステップテスト平均点7割以上 2：ステップテスト平均点6割以上 1：ステップテスト平均点5割以上	2	・ステップテスト平均点8割以上をこえる生徒は学年全体では13%である。低い結果となってしまった。自主学習の大切さを伝えるようにする。併せて資格取得も取り組んでいくように指導する。	・コロナの影響で、今後求人数が減少した場合、就職から進学にシフトすることにも予想されることから、進学に対応できるよう高い意識で学習に取り組めるよう指導していただきたい。	B

業務改善	日常的な業務		4：教職員アンケートの分掌業務の組織的な取組における肯定的回答が60%以上。				
	相互に信頼できる円滑な職場環境づくり	・全教員の元気とやる気の生まれる職場の人間関係づくり（ラインケア）を進める。 ・業務のペアワーク化を進め、作業効率の向上や人材育成の推進業務分担適正化を図る。	3：教職員アンケートの分掌業務の組織的な取組における肯定的回答が50%以上。 2：教職員アンケートの分掌業務の組織的な取組における肯定的回答が昨年並み。 1：教職員アンケートの分掌業務の組織的な取組における肯定的回答が昨年から下回った。	2	・アンケート結果では分掌業務の組織的な取り組みについての項目では、昨年度と同様の45%という結果であった。魅力ある学校づくりに十分取り組んでいるという項目では、61%から73%にアップした。来年度以降も、作業効率の向上や人材育成、業務分担の適正化を図り、元気とやる気の生まれる職場環境づくりを推進していきたい。	・学校でのコロナ対策やICTを活用した授業への対策など、これまで以上に業務の負担があったと思われるが、このようなときだからこそ教員間のコミュニケーションを大切にして、学校運営を行っていただきたい。	B
	学校の組織等	・外部講師による校内研修を実施する。 ・校外研修等の復伝講習を行う。	4：計画した研修や復伝を全て実施した。 3：計画した研修や復伝を6割程度実施した。				
	教職員の資質能力向上と人材育成	・全教員が年間1回以上研究授業を参観する。 ・若手教員を主任等へ登用する。	2：計画した研修や復伝を3割程度を実施した。 1：計画した研修や復伝は実施できなかった。	2	・新型コロナウイルス感染症の影響で、外部講師による研修等、実施できなかった。校長による綱紀保持研修を年間を通して実施した。初任者研修や中堅教諭研修を活用し、授業参観等による校内研修や授業改善に向けた取組はできた。 ・3学年主任に中堅教諭を登用した。来年度以降も積極的な登用を実現したい。	・オンライン研修等を積極的に活用し、授業改善や教職員の資質向上に努めていただきたい。	B
	勤務状況	・時間外在校等時間縮減を呼びかける。 ・「下松工OSD」を推進する。 ・年休や代休の取得を呼びかける。 ・ノー残業デーの年5回設定と実施。	4：年間の時間外在校等時間が昨年に比べ20%以上減少した 3：年間の時間外在校等時間が昨年に比べ10%減少した。 2：年間の時間外在校等時間に変化が見られなかった。 1：年間の時間外在校等時間が増加傾向にあった。	4	・教職員一人ひとりの働き方改革に対する意識の向上や、効率的な部活動運営の推進により、時間外在校等時間の平均は、1月末時点で昨年比－61%であった。年休取得の向上や「下松工OSD」の取組も浸透してきている。	・教員の業務が多忙を極め特に今年度コロナ対策により拍車がかかった状況ではあったと思われるが、今後も積極的に働き方改革に取り組んでいただきたい。	A
	時間外業務の状況を掌握し、昨年比15%の縮減に努める。						

6	学校評価総括（取組の成果と課題）
今年度の総括として、新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、学校運営や学校行事計画の見直しを余儀なくされた。感染症対策を維持し ①ものづくりによる地域貢献活動や地域連携 ②3年生の100%進路実現 ③志願者の増加 以上について、一定の成果があったと評価していただいた。 来年度に向けて、百周年記念事業の成功のための組織づくりと準備を同窓会や地域と連携しながら進め成功に導きたい。また、更なる志願者の増加に向けた取組について、今年度の実践を見直し工夫しながら取り組んでいきたい。	
1	重点努力目標・・・地域産業を担う人財の育成 「凡事徹底」 （1）【学習指導】基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得 基礎学力の向上に向け、生徒の意識改革や教員の授業改善に努め欠点数の減少は見られたが、家庭学習時間の増加による学習習慣の確立には至っていないのが現状である。これまでのステップテストの実施や資格取得による個別指導では、一部の生徒に学力向上が見られるものの、全体の底上げという視点でみれば、これまでの取組だけでは不十分であり、今後も改善は見込めない。これまでの取組以外に生徒の意識向上や家庭学習時間の増加に向けた新たな対策を検討していくことが急務である。 （2）【生徒指導】人間力の向上(あたりまえ向上委員会の活用) コロナ禍の中、感染症対策を講じた上で生徒会を中心に学校行事を実施できたことは成果と言える。今後も生徒会活動を活発化させ、生徒主役の学校運営を行って行きたい。一方で、生徒の問題行動については昨年度と比較し減少傾向にあるものの、スマートフォンに関する事案が多数を占めている。また、複雑な家庭環境や生育歴に起因する不適応や進路変更も一定数発生している。問題行動の未然防止に努めるとともに、保護者やSCと連携しながら、生徒の安心・安全な学校生活の為の環境整備や対応を行って行きたい。 （3）【校務分掌・その他】教職員の協同体制による組織力の向上 これまでの時間外業務の大きな要因であった部活動指導については、教員の意識改革と部活動基本方針に則った計画的な活動により、時間外在校等時間が昨年度比－61%を達成するなど一定の成果が出ている。しかし、分掌業務の業務分担の不均衡については解消されているとは言えず、一部の教員に負担がかかっており、業務分担の適正化については継続課題である。初任者研修や中堅教諭研修を活用し、年間を通して研究授業を実施することで、授業改善や資質向上等の成果は出ている。
2	チャレンジ目標 「皆勤(遅刻・欠席0) 8割以上」「ステップテスト平均点8割以上」 皆勤率の向上については、生徒の自己管理能力の向上と保護者の協力が不可欠であるが、遅刻や欠席等に対する意識や価値観は低下している。ステップテストの得点については、家庭学習時間の不足が結果に反映しているため、学力向上を含め継続した指導が必要である。

7 次年度への改善策
【学校運営】来年度は学校創立百周年を迎える節目の年となる。これまでものづくりのまち下松を支える人材を多数輩出し、地元の発展や活性化に貢献してきた。この百周年を契機に、これまで築き上げた「下工ブランド」をバージョンアップさせ、永続的に地元で愛され、必要とされる学校づくりを目指したい。そのためにも、今年度上昇に転じた志願者数を来年度以降も確保できるような取組を全校体制で行って行く。 【学習指導】家庭学習の取組については、昨年度同様に生徒の意識や学習時間の不足について課題が残った。授業以外の個人指導や補習を継続するとともに、授業改善や家庭学習支援の具体的な手立てを示すことで、生徒の学習意欲の向上や家庭学習時間の増加を図りたい。また、タブレット端末の導入に向けての環境整備や準備を行い、新たな学び方を浸透させ、生徒の学習意欲の喚起に繋げていきたい。 【生徒指導】生徒の自己指導能力の育成を目標とし、問題行動の未然防止やいじめ対策を行ってきた。問題行動件数は昨年度と比較し減少傾向にあるが、根絶には至っていない。また些細なものも含めいじめと認知された事案も発生した。人間関係づくりの重要性を再確認し、今年度の新1年生のA F P Yを年度当初に実施し、生徒のコミュニケーション能力の向上を図っていききたい。 【進路指導】コロナ禍で求人数の減少や大学入試の対応が危惧されたが、本年度も3年生については概ね希望どおりの進路が決定した。就職試験では一部の企業で、オンライン面接が実施され今後も拡大する可能性もあることから、対応できる環境の整備や、面接指導の充実を図っていききたい。また、大学や高専編入希望者に対し、十分な情報提供や受験対策についての指導を充実させ、引き続き、高専編入希望者の合格を目指したい。 【健康安全教育】臨時休校により健康診断が2学期に実施された影響で、治癒率が上がっていない。家庭と連携しながら治療勧告を行い、早期の完治を目指したい。また、新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染症予防対策をや新しい学校の生活様式を徹底することで、安心して登校できる環境を確保したい。 【特色づくり】百周年を機会に、学校HPをリニューアルする。これまで以上に、学校行事や生徒の活動のを掲載することで、学校の特色や良さをアピールしたい。また、来年度より他の工業高校に先駆け、ドローン実習を導入する。既存の取組と併せ新たな取り組みを積極的に行うことで、更なる志願者の増加に繋げていきたい。 【業務改善】教職員の意識改革や「下松工O S D」の浸透、効率的な部活動運営により、時間外業務時間の大幅な減少など働き方改革が進行している。引き続き業務分担の適正化を図りながら、働きやすい職場環境の構築に努めたい。